のボランティア活動を紹介した。

彼はＪＩＣＡの仕事とは別に、土、日の休みの日に津波で被害を受けた地域のキャンプ地を訪問し、被災した子どもと話をしたり遊んだりしながら、子どもがリーダーとなって行う活動や、バレーボール大会の開催などを行っている。日本においても、阪神・淡路大震災を機にボランティア活動が一般化され、平成７年がボランティア元年といわれるようになった。「兵庫の防災教育」においても、ボランティア活動に積極的に参加しようとする心を育てることに取り組んでいる。

ケ　震災から得た教訓

兵庫県においても、震災以前は神戸には大きな地震は来ないと根拠もなく信じられていたため、災害時の備え（防災体制・意識）が不十分であり、自然への畏敬を忘れ、社会システムへの過信があった。大きな犠牲を払いはしたが、命の尊さや人と人の絆、相互扶助の大切さについての教訓を得て、防災について再度見直す機会を与えられた。震災を特定の地域に起こった特殊な出来事として片付けることなく今後に生かしていくため、スリランカでの現地視察や授業実践、ＪＩＣＡによる支援活動などを踏まえて、震災から得た教訓について、受講者に伝えた。

コ　震災の教訓を生かすために

阪神・淡路大震災では、多くの人々が安全で安心な場所を求め集まったのは学校であった。そこで教職員は避難所の運営など救援業務に尽力し復興に寄与した。この時の教職員の指導力・行動力は避難住民に高く評価された。今でも災害が起こった際には地域の安全・安心の拠点として学校が避難所として役割を担っている。そのため日頃からの防災部局との連絡をとり、学校や教職員の役割について事前に打ち合わせを行っておくことを求めている。

また、震災を通して、私たちは従来の安全教育だけでなく命の尊さを知り、人の温かさを感じ、助け合いの大切さなども学ぶ「新たな防災教育」を実施した。この取組を継承した「兵庫の防災教育」を進めていくこととしている。

さらに、心のケア対策についても、震災直後から被災した子どもたちの心のケアに取り組み、適切な支援活動を行うための相談事業をはじめ、研修会の実施、教育復興担当教員（平成１７年度からは心のケア担当教員）の配置、「震災の影響により教育的配慮を必要とする児童生徒の状況などに関する調査」の実施など、震災後１２年が経過してもなお、継続して取り組んでいる。今後は「心のケアの一般化」として、復興担当教員、心のケア担当教員の取組の成果を他の教員にも広め定着を図ることとしている。

３　成果と課題

このたび、教師海外研修の報告を推進指導員養成講座（上級編）に取り入れることについては、受講者にスリランカの被害状況、防災体制、防災教育について話す

一方で「兵庫の防災教育」の取組を解説し、阪神・淡路大震災前とその後歩んできた兵庫県の防災教育について理解が深まるよう心掛けた。

結果、震災から１２年が過ぎ、いつやってくるかわからない災害に対し防災意識を持ち続けるためにも防災教育の取組を各学校、地域で継続していくことの大切さを考える機会になった。

受講者の感想に、「スリランカ視察の報告と兵庫の防災教育についての話を聞いて、今後の防災教育の切り口の参考になった」「講義を聞いて防災教育の進め方がわかった」、「実際に防災施設や被災場所に行って体験することの重要性がわかった」といった声が多く、少なからず成果があったと感じている。

反省点としては、ＪＩＣＡ職員や青年海外協力隊の話、ＪＩＣＡから提供された資料をもとに、スリランカの被害現状、防災体制、防災教育について伝えることはできたが、防災教育を主目的とした教師海外研修ではなかったため、被害の大きかった地域の視察や被害を受けた教師や子供たちとの交流ができなかったこと、大津波で被害を受けたスリランカの現状に深く迫った講義ができなかったことがあげられる。

とはいうものの、何よりも「兵庫の防災教育」を担当している私自身がスリランカの政治、経済、生活、文化、教育などとともに被災状況や防災体制、防災教育の状況を知ることができたことは今後の研修の企画などに大変役に立つものとなった。このような機会を与えていただいたＪＩＣＡをはじめ関係の方々に感謝したい。

あとがき

アジア・南太平洋の草の根の人々と共に「平和と健康を担う人づくり」を行う PHD 協会が教師海外研修のお手伝いをさせていただいて三度目となる。JICA と小さな NGO が互いの特色を生かしての研修設定である。

今回はコロンボ周辺での JICA シニア隊員、青年海外協力隊の活動現場を見学し、PHD 研修生の案内で農漁村での生活体験、学校での交流を行った。彼らは PHD 協会の招きで日本で 1 年間学んでいる人たちだ。短い日数ではあったが、幅広い内容となった。現地でお世話になった多くの方々、関係者の皆さんに感謝申し上げたい。

この経験を授業に生かした実践がこの報告書である。個人の経験にとどめず、こうして教育の現場に生かされれば、また、報告書をお読みいただく方にも何かが伝われば、お手伝いした者の一人として嬉しく思う。

近年、ODA と NGO が協力して事業を行うことが増えてきている。教育の現場にも私たちのような NGO の経験がお役に立つこともあるかも知れない。一つのリソースとしてご活用いただければと思う（PHD 協会の URL：http://www.kisweb.ne.jp/phd）。

この日程の最終日、私たちが泊まっていた宿の近くで爆破事件があった。幸い参加者に被害はなかったが、この国の中で武器を伴っての争いがあることを再認識した。津波被害からの復興、開発全般へは日本からも協力が届いている。それも大切であるが、この対立に対して、何かできることはないのだろうか、あらためて考えてしまう出来事であった。

運営委託者　財団法人　ＰＨＤ協会
総主事代行　藤野達也

平成18年度　教師海外研修（スリランカ）応募用紙

ふりがな 氏名		性別	生年月日	年齢
		□ 男性 □ 女性	19　　年　　月　　日	歳

本人現住所	〒□□□－□□□□ Tel: e-mailアドレス:　　Fax:
渡航時の連絡先	〒□□□－□□□□ Tel: （続柄:　　）Fax:

ふりがな 所属学校名 （正式名称）		職名	
		担当教科	

学校住所	〒□□□－□□□□ Tel: Fax:
趣味・特技	
JICA主催の事業について	1、JICA主催の事業へ参加されたことがありますか？　□ ある　□ ない 2、（1、であると答えた方） 何の事業にいつ頃参加されましたか？ （事業名:　　時期:　　）

アレルギー・病気等	過去の申込経験	海外渡航の経験
□ ある　□ ない 詳しくお書きください	□ ある ＿＿＿＿年 □ ない	□ ある　□ ない ＿＿＿年　国名＿＿＿＿ ＿＿＿年　国名＿＿＿＿ ＿＿＿年　国名＿＿＿＿

外国語会話	○をつけてください	会話が堪能	意思疎通が可能	簡単な日常会話	できない
	英　語				
	語				
	語				
	語				

写真
（4×3cmまたは4.5×3.5cm）
裏面に氏名を記入

私は募集要項記載事項をすべて承諾し、この研修の参加を申し込みます。

平成17年　　月　　日　　氏名　　㊞

海外研修への応募動機または研修に期待することについてお書きください。

これまでの国際理解教育及び開発教育への取り組みについてお書きください。（校務で国際理解教育を担当されている方は明記してください。）

今回の海外研修の体験を、今後の教育活動にどのように活かしていかれるのか、その計画や方法を具体的に説明してください。

どのようにして本研修のことを知りましたか。

☐ 職場 （1、上司から奨められた　2、同僚から奨められた　3、直接募集要項を受け取った

4、募集要項が回覧・掲示されていた）

☐ JICA （1、本部　2、支部・センター　3、JICAホームページ　4、JICA国際協力推進員）

☐ 教育委員会　☐ 各種研究会 （名称:　　）

☐ その他 （具体的に:　　）

所属する学校長の推薦の言葉をご記入ください。（本欄は管理職に参加希望を認知いただいていることの確認のためにご記入いただいています。）

＜理由＞

以上の理由により、上記のものを、独立行政法人国際協力機構主催の教師海外研修に参加することを推薦します。

学校名　　職務　　氏名　　㊞

JICA（Japan International Cooperation Agency）とは

国際協力機構（JICA）は、開発途上地域等の経済及び社会の発展に寄与し、国際協力の促進に資することを目的として設立された独立行政法人です。主な事業として技術協力（研修員の受け入れ、専門家の派遣、機材の供与、開発調査等）、青年海外協力隊等のボランティア派遣、無償資金協力事業の実施促進、災害緊急援助等を実施しています。

＜JICAは国際協力や開発教育支援を通じて、地域の『元気』を応援しています＞

●中学生・高校生エッセイコンテスト

開発途上国や国際協力について考えていることを、400字詰原稿用紙4枚以内（中学生は3枚以内）にまとめて応募してください。募集期間は、5月～9月で、中学生・高校生とも、特選は国際協力機構理事長賞2名、外務大臣奨励賞1名、文部科学大臣奨励賞1名の各4名で、副賞は1週間の海外研修旅行です。他にも、準特選、審査員特別賞など多数の賞が用意されています。

●国際協力実体験プログラム

JICAの支部・センターに生徒及び指導教師を招き、国際協力について理解を深めてもらう機会を提供しています。主に平和や国際協力について、また、国際災害援助、防災援助についてワークショップや研修員との交流会をまじえた国際理解（多文化共生）教育支援活動を実施しています。

●JICA国際協力出前講座

開発途上国の実情を知り、国際協力の必要性を理解していただくため、JICAが職員や専門家・青年海外協力隊のOB・OGなどを講師として派遣いたします。

●JICA研修員の学校訪問

開発途上国から技術研修のため来日中のJICA研修員を国際理解と交流のため学校に派遣いたします。

●青年招へい事業・合宿セミナー

開発途上国の国づくりを担う青年を日本に招き、専門分野（教員、地方行政、農業等）についての研修を行っています。この研修の一環として、日本の同世代の青年との意見交換・交流を目的とした2泊3日の合宿セミナーを行っており、参加者を募集しています。セミナーでは、グループディスカッションやスポーツ交流等のプログラムがあります。

●パンフレット・ビデオなどの提供

JICAでは、国際協力やJICAの活動について紹介した各種パンフレットを準備していますので、ご請求ください。また、ビデオ・パネルの貸出もおこなっています。

●JICAインターネットホームページ

エッセイコンテストや青年海外協力隊員などの各種募集情報、開発教育に関する情報、ニュースレターなど、JICA発信の最新情報が見られるほか、開発途上国に関する情報のデータベースも利用できます。

※JICAホームページ　http://www.jica.go.jp/

また、国際協力に関する各種情報を掲載したメールマガジンの配信（無料）もおこなっています。購読希望の方は、JICAホームページにアクセスし、登録手続きを行ってください。

お問い合わせは、JICA兵庫　Tel:　078-261-0341

http://www.jica.go.jp/branch/hic/jigyo/kaihatsu/index.html

JICA
ジャイカ